

令和4年度実施事業 課題対応取組み一覧表

【総合相談窓口(ブランチ)】

区名	ブランチ名	カテゴリー	活動テーマ
北区	大淀	地域や専門職とのつながり等	支え合い学び合い育てあい(共感をもってゴールを目指す) ～皆が個々の力を発揮できる地域～
	梅田東	地域や専門職とのつながり等	①問題の早期発見・介入のためのネットワーク構築 ②フレイル予防啓発活動
	豊崎	地域や専門職とのつながり等	地域のつながり再構築
此花区	春日出	地域や専門職とのつながり等	現代社会から孤立しがちな高齢者の予防支援策として地域支援関係者と連携を図り、ネットワークを構築する。
西区	花乃井	社会資源の創設	地域高齢者の参加意欲向上に向けた取り組み
港区	港南	地域や専門職とのつながり等	地域や専門機関同士が気軽に連携が取れる体制を構築し、要援護者の早期発見を目指す。
	市岡東	認知症高齢者等の支援	認知症高齢者の早期発見につなげるための啓発活動
	築港	地域や専門職とのつながり等	孤独、孤立を予防しつながりを絶やさない。
浪速区	浪速	地域や専門職とのつながり等	支援が必要となる前の段階の人への周知活動
	日本橋	地域や専門職とのつながり等	地域のつながり強化 ～連携と協働の為に体制づくり～
	難波	地域や専門職とのつながり等	障がい者基幹相談支援センター及び生活支援(ケースワーカー等)との連携を深める
生野区	大池	地域や専門職とのつながり等	・高齢者の孤立化予防と支援が必要な高齢者の早期発見 ・地域住民が早期相談できる関係づくり
	生野東	地域や専門職とのつながり等	地域の実態把握とブランチの周知活動をおこなう
	田島	地域や専門職とのつながり等	コロナ禍で途絶えてしまった地域高齢者との相談・交流の場の再開に向けて
	新生野	地域や専門職とのつながり等	相談内容件数が多い認知症への取り組み ①ブランチの周知活動 ②地域住民に対する、認知症予防についての啓発
	新巽	地域や専門職とのつながり等	複合的な課題をかかえる世帯への多面的な支援と他機関連携し地域資源を活用していく。 地域の実態把握とブランチの周知活動を行う。
阿倍野区	昭和	地域や専門職とのつながり等	早期発見・早期対応に向けた、幅広い世代に対する周知活動について Part.2
東住吉区	矢田東	地域や専門職とのつながり等	身近な相談窓口として、地域に根ざした活動を行う
	白鷺	地域や専門職とのつながり等	地域支援者と高齢者の支援を協働して行う。
	矢田西	認知症高齢者等の支援	地域高齢者との顔の見える関係性の構築
西成区	天下茶屋	地域や専門職とのつながり等	ひとり暮らし高齢者の生活課題に対する早期アプローチ
	山王	地域や専門職とのつながり等	体験参加型の取組みを通じて地域住民がつながり、交流できる機会を持つ
	成南	その他	生活困窮に陥った地域住民への支援
	梅南・橘	地域や専門職とのつながり等	「身近な集いの場の発展から、地域住民がつながるまちづくり」
	南津守	地域や専門職とのつながり等	地域で孤立しやすい高齢者世帯への支援体制の構築
	あいりん	社会資源の創設	ひとり暮らし高齢者の居場所づくり・健康への意識付け

課題対応取組み報告書

名称	北区大淀地域総合相談窓口			
提出日	令和	5	年	5月16日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	支え合い学び合い育てあい (共感をもってゴールを目指す) ～皆が個々の力を発揮できる地域～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	内縁関係など同居している構成がこれまでとは異なってきている事と、介護保険に繋がりケアマネジャーが付いていても一筋縄では解決出来ない複合的な問題を抱えているケースが増えている。 具体的には金銭管理、病院や施設との契約行為、医療同意、医療や介護の面での課題。 その時の責任や権限などはケースごとに周囲の背景や状況によって異なる。 後見制度の説明をさせて頂いても理解が難しく報酬が必要ということも申し立てに至るまでの大きなネックとなっている。 早期の協働、そのための学び、法的な専門職からの助言、多様化する住民の状況の把握、福祉教育、住民と専門職のつながり、しっかりとした意見を言い合え、助け合える関係。 これらが具体的にタイムリーに日常の支援の中で求められる状況だと痛感した。	
対象	地域住民と関係機関 (地域住民、ボランティア、関係福祉専門職と機関)	
地域特性	中津地域では近年うめきたエリアの開発が進んでおり、若者世代の家族が増加している一方で、築年数の古い住宅も多くありひとり暮らしの高齢者が多い。 交通の便も良く地下鉄、阪急、市バスが通っている。 大淀東、西地域においても近年、タワーマンションの増加により子育て世代が増えている。 中津、大淀東・西地域ともに町会、民生委員、地域福祉コーディネーターやボランティアの働きにより地域活動は活発であるが支えている人達の高齢化によりに担い手不足が懸念される。	
活動目標	小地域での地域住民と関係機関のつながりを深めていく。 1.身近な所に関係機関があることを住民に知ってもらう 2.専門職と地域が垣根のない関係となる	
活動内容 (具体的取組み)	①大淀東地域の「頭も心も元気になろう大淀東」(百歳体操・脳活)時に地域福祉コーディネーター及びボランティアの協力を得て実施。目的としては専門職と地域が垣根のない関係となる、身近な相談窓口を知って頂く、気軽に聞ける関係性を築く、母体の組織力と地域のコミュニティ力、近くの圏域の社会資源となる総合病院の専門性を活かし圏域での共生を目指すツール構築である。内容としては地域の高齢者に今一度、専門職から「介護保険制度」をわかりやすく説明、大淀地域に所在する2つの事業所の管理者からの説明により、身近に相談できる場所の周知活動を行った。 ②2020年から始まったOKJ通信(大淀北住宅との通信)の継続(令和3年3月に創刊)。機関誌としてメッセージを発信。大淀北住宅の町会役員の協力を得て住民とのつながりを働きかけた。又、OKJ活動では住民、淳風おおさか(居宅介護支援事業者)、大淀総合相談窓口(ブランチ)が共催、近隣の介護保険事業所のデイサービスの協力を得、自身の歩き方をデータで分析、スマートフォンを持っている方には専門職よりデータを送信。握力測定では基準値と比較して頂いた。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	活動目標1の成果として新たに大淀東地域に併設されるリハビリテーション病院の居宅介護支援事業者と協力する事で地域住民に周知を行う事が出来た。すぐ近くにある介護保険の事業所の周知活動を行う事により、実際に介護保険でデイサービスを利用している参加者からは「こないようなタイプがあったなんて知らなかった。ケアマネジャーにもっと聞けばよかった」と情報提供が不足しているケースがあることもわかった。 活動目標2の成果として①では、地域の介護保険の窓口である居宅介護支援事業者の管理者を紹介、顔の見える関係作りの土台作りを行った。②では、介護保険のデイサービスのイメージが住民の方達の間で相違があった事が発見出来た。この活動については住民への事前リクエストを実施し、「歩行」に関心があったことから始まった。「フレイル予防」に関しての関心度の高さを実感した。	

今後の課題	令和 5 年 3 月に着任、前任者と 3 月に 2 つの活動を行った。活動に際してはコロナによる感染状況も考慮しなければならず、年度末に 2 つの活動を行う事となり、着任したばかりであわただしく過ぎていった感じが否めない。自身の課題としては地域のニーズを的確に把握する事が最も必要である。地域の活動に参加し住民との交流を図っていく事が重要である。 大淀北住宅の集会所の利用については、主たるリーダーが変わる為、新たに働きかけていく必要がある。OKJ通信はコロナ禍でのつながりであった為、出来れば「フレイル予防」に重点をおいた活動を継続して行っていきたい。
-------	---

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 5 年 7 月 1 8 日（火）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☐ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	地域住民と関係機関とのつながりを深めるため、地域関係者や地域の事業所と一緒に相談窓口や介護保険制度の周知活動に力を入れている。コロナ禍において始めた、高齢者の居住割合の高い住宅をターゲットとしたつながりづくりの活動では、地域と関係機関とで作成する手書き通信での働きかけに加え、住民の興味のある歩行測定を事業所と共に実施している。これらの取組みは、地域性・継続性・独自性のある活動として評価できる。 今後は、コロナ禍で制限されていた集会所の活用の再開に向けた取り組みや、フレイル予防にも重点を置いた活動ができるよう、期待する。

課題対応取組み報告書

名称	北区梅田東地域総合相談窓口
提出日	令和 5 年 5 月 31 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	①問題の早期発見・介入のためのネットワーク構築 ②フレイル予防啓発活動	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・マンション居住高齢者は地域から孤立する傾向にあり実態把握が難しいため、早期発見・介入のためには多様な関係機関とのネットワーク構築が必要である。 ・数年に渡るコロナ禍による地域活動制限の影響で、高齢者のフレイル予防啓発が必要である。	
対象	住民、マンション管理会社・管理組合、郵便局、医療機関、民生委員、地域福祉コーディネーター等	
地域特性	・担当圏域は梅田周辺の6地域で高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在した地域である。北区人口の9割がマンション等での生活となっており、梅田東・済美・堂島・中之島地域の高経年のマンション等では住人の高齢化が進んでいる。特に扇町市営住宅の高齢化率は非常に高い。 ・担当6地域では高齢者人口や地域活動参加による予防意識に差があり、梅田東・済美・北天満地域では高齢者も多く、百歳体操やふれあい喫茶、食事サービスなどの地域活動も活発である。堂島・中之島地域は合同で百歳体操やふれあい喫茶等を実施しているが、中之島地域からの参加者は少ない。曽根崎地域は高齢者人口が少なく地域活動自体が少ないが、コミュニティセンターが新規移転し新たな活動が検討されている。	
活動目標	・潜在化する高齢者のニーズ発見のため、マンション管理人室をはじめ、高齢者の利用が多い郵便局や医療機関へ総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）の周知を行う。 ・再開された地域活動等に積極的に参加し、住民や地域関係者と交流し、問題の早期発見・介入に努める。 ・平成30年、令和2年度に70歳以上の方へ全戸訪問を実施した「扇町市営住宅の高齢者の見守り活動」の継続について、北区地域包括支援センター（以下「包括」という）、民生委員、地域福祉コーディネーターと検討・実施する。 ・フレイル予防啓発活動について、再開された既存のはつらつ脳活性化教室やふれあい喫茶の時間を活用して、他機関の専門職の協力を得ながら講演会やミニレクチャーを実施する。また開催・参加できなかった地域や高齢者に対して、講演会のダイジェスト版を「ランチからのお知らせ」として発刊し、適宜配布し幅広く知識や情報が行き渡るよう工夫する。	

活動内容
(具体的取組み)

1.高齢者支援のネットワーク構築

①マンションアプローチ

・過去に個別相談があったマンションや、築10年以上経過しているマンション・アパート等を中心に訪問し、ランチの役割説明、「ランチからのお知らせ」、「ランチチラシ」の掲示や配架依頼、住人の近況確認などを行った。

訪問件数：34棟 延べ57回

・マンション単位で開催されている百歳体操に定期的に参加し、管理人・住人との関係づくりを継続中。

・過去に相談があった管理人の居ないハイツ・アパート・マンションへ「ランチチラシ」のポスティングを実施。

・梅田東地域のマンション集会所にてフレイル予防の講演会を実施。

②郵便局訪問

R2年度から実施している郵便局訪問を継続した。認知症高齢者や潜在的ニーズの早期発見のため、高齢者が多く訪れる郵便局を訪問し、「ランチからのお知らせ」や「ランチチラシ」の提供と設置依頼を行った。また講演会「自動車運転と認知症」のポスター掲示依頼や「健康・介護フェア」の案内も実施した。周知を継続的に行うことで局員との相談ネットワーク構築を目指している。

訪問件数：4局 延べ12回

③医療機関訪問

総合相談を通じて高齢者が通院している診療所・病院をリストアップし、ランチへ直接相談がもらえるよう、「ランチチラシ」を配布し周知活動を行った。病院に対しては虐待防止リーフレットも配布し、権利擁護の啓発とランチも通報窓口であることの周知を行った。

訪問件数：22件 延べ25回

④地域関係者とのネットワーク構築と高齢者実態把握

・済美、北天満民生委員協議会、中之島役員会に参加して情報交換

・梅田東、北天満、済美のふれあい喫茶、食事サービスにて女性会、地域福祉コーディネーター、住民と交流

・梅田東、北天満、済美の百歳体操前に血圧測定・健康相談

・堂島、中之島10分脳活＆出張相談

2.北天満小地域ケア会議（扇町市営住宅）

全2回開催、参加者は民生委員・地域福祉コーディネーター・北区包括・ランチ。

各機関で見守りしている状況の共有と活動方針の検討を行った。

3.フレイル予防啓発活動

全7回、体力測定会や講演会を実施。

対象地域は済美・北天満・梅田東・堂島、対象者は各地域の脳活性化教室・百歳体操参加者や住民。

体組成計等による測定やロコモチェックの体力測定会、食事やオーラルフレイル、認知症専門医や区保健福祉センター保健師からの講演などを行った。

4.「ランチからのお知らせ」配布（年2回発行）

済美講演会-1「フレイル（虚弱）予防とバランスの良い食事について」のダイジェスト版パートⅠ・Ⅱを「ランチからのお知らせ」として作成し、他地域の地域活動時やマンション管理人室等に配布し、知識や情報が幅広く行き渡るよう工夫した。

成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1.個別ケースで定期的に見守りをしているマンションについては、管理人との関係性を継続できている。別マンションでは、管理人経由で家族からの新規相談にも繋がった。「ランチチラシ」を全戸ポスティングしたマンション住人からは施設探しの相談もあり、徐々に周知の効果が出ている。梅田東のマンションでは集会所でランチ周知活動とフレイル予防の講演会も実施した。郵便局員から個別ケースの相談は無かったが、中崎郵便局では「ランチチラシ」や「ランチからのお知らせ」、講演会ポスターなどを掲示してくれている。浪速郵便局では入口近くに「ランチチラシ」を配架、「ランチからのお知らせ」も来局者の目の届くところに置いて頂いた。診療所・病院訪問では、ランチの存在を知らない場合が多いということがわかり周知の必要性を感じた。コロナ禍でも再開した地域活動や民生委員協議会へ参加することで、今年度は地域福祉コーディネーター、民生委員、女性会からの相談が増加した。 2.北天満小地域ケア会議（市営住宅）では、1回目・2回目ともに10世帯11人の検討を行った。検討後は民生委員、北区包括、ランチで役割分担をして見守り継続を行っている。 3.フレイル予防啓発活動については他機関と連携し「オーラルフレイル」「栄養」「認知症」「筋力測定会」等、幅広く実施することができた。 4.講演会のダイジェスト版として「ランチからのお知らせ」を作成し、他地域の地域活動時やマンション等訪問時に配布し、講演会に参加できない高齢者にも情報を届けることができた。
今後の課題	・マンションアプローチや地域活動への参加、郵便局や医療機関への周知活動を継続し、様々な機関や関係者と連携し潜在的ニーズの発見に努める。 ・高齢者が多い扇町市営住宅の小地域ケア会議を継続し実態把握と見守り活動を行う。また北天満地域は相談件数が多いため、市営住宅に留まらず北天満地域全体の実態把握の方法を検討する必要がある。 ・新設移転した曽根崎コミュニティセンターで地域活動等が新規スタートする際は参加し、地域関係者や住民との関係づくりを行う。 ・小中一貫校ができた中之島地域ではファミリー層を中心に人口が増えている。マンションが多く実態把握が難しく相談件数も少ないため、中之島役員会（町会長、地域社会福祉協議会、民生・児童委員、女性会等）に適宜参加しネットワークを構築する必要がある。 ・数年にわたるコロナ禍の影響でフレイルや認知症が進行していると推測できるため、関係機関の専門職の協力を得て、フレイル啓発活動の継続とランチ周知による問題の早期発見・介入に努める。 ・各講演会のアンケート結果では、成年後見制度についての関心が低い。入口として地域で関係機関による人生会議のレクチャーを行うなど、問題意識を持ってもらえるよう工夫した活動が必要である。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター運営協議会開催日	令和5年7月18日（火）
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	マンションアプローチや、郵便局・医療機関訪問、脳活性化教室や百歳体操での講演会など、地域へ積極的に足を運びネットワーク構築やフレイル予防啓発活動に取り組んでいる。講演会のダイジェスト版を「ランチからのお知らせ」として作成し、マンションへ掲示・配架の依頼をしたり、マンションとの関係作りに経年的に取り組んだことで新規相談にもつながっている。 これらの活動は、地域性・継続性・浸透性のある取組として評価できる。また、法人の強みも生かし、地域での講演会に医師や言語聴覚士等の医療関係者を招き、協働でフレイル予防の取組みを行っていることは、独自性のある活動と評価できる。 今後は、相談件数の少ない地域における周知活動や、コロナによる制限が緩和された中での幅広いフレイル予防の啓発活動が行えることを期待する。

課題対応取組み報告書

名称	北区豊崎地域総合相談窓口
提出日	令和 5 年 5 月 25 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	地域のつながり再構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	年度上半期については特に新型コロナウイルス感染症流行の影響により、感染症予防の観点から外出を控えるといったことが起きていた。 その為、地域活動については地域特性上、元々組織化に課題があったが、中止や延期が相次いだことから、再開する際にも感染拡大の心配や習慣の喪失といった理由により、以前の活動に戻る事が難しかった。 このような地域活動の停滞から、また地域で孤立している高齢者が増加し、その発見も難しくなった。	
対象	本庄・豊崎地域の高齢者	
地域特性	本庄・豊崎両地域において流動人口が増加している。 高齢化率自体は低くなっていても、高齢者人口は増えている。 住民の9割がマンションに居住している。 新たに大規模マンションも建設されており、住民の転入・転出も活発になっている。その為、地域のネットワークが分散しており、地域とのつながりが少ない高齢者が存在している。	
活動目標	高齢者自身のフレイル予防の意識を高め、地域への関心を高めてもらい、地域活動の再開を支援する。	
活動内容 (具体的取組み)	新型コロナウイルス感染症流行期に行っていた自宅でもできる運動のチラシについて、大淀老人福祉センターや豊崎会館や本庄会館に掲示するとともに持ち帰り用に置かせていただいた。 このチラシでは、デイサービス職員が実際に運動のやり方を説明している動画を撮影し、インターネットの動画配信サイトに登録した。 UR都市機構のマンション自治会において、百歳体操を支援した。 また、北区認知症初期集中支援チーム（以下「北区ハートフルオレンジチーム」という）の主催で、認知症予防を目的とした講演会を二回開催した。 本庄会館では、月ごとに開催されていたふれあい喫茶に併せ、地域の相談会を開催した。 開催に併せ、周知のチラシを作成し地域の会館に貼り出したり、大規模マンションにポスティングを行った。 また、朝の登校児童の見守り隊に参加し、散歩している高齢者や出勤途中の住民に対して声掛けや相談会の案内を行った。 相談会では、北区ハートフルオレンジチームとの連携が必要になるなど、深刻なケースの相談も寄せられた。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	○昨年度までに作成した6種類の「自宅で取り組める運動」のチラシについて、ケアマネジャーを通して、自宅に引きこもりがちで体力に不安がある高齢者に対して配布を行った。 ○UR都市機構のマンションの百歳体操については、感染予防と場所となった集集場の広さの観点から、広く告知することはせず、一部の住民に対しての開催となった。認知症予防を目的とした講演会では、「メンタルヘルスの観点から見た認知症予防」「健康長寿の観点からみた認知症予防」について話をさせていただいた。 ○本庄地域相談会は、ふれあい喫茶と併せて、ほぼ毎月開催した。過去に支援していたが本人都合で支援が中断していた方や、「今は必要ないが今後に向けて介護保険について教えてほしい」と新規相談の方、また重大なケースに発展した方など、普段なかなか相談に来られない方が相談に来られた。また相談会のチラシが各町会の掲示板に貼り出されるなど、地域資源として活用され始めるようになった。 ○朝の見守り隊への参加では、散歩していた高齢者や同居している高齢者を介護している家族に対して、相談会の告知を行った。また見守り隊の方達にも相談会への告知を行い、心配な様子的高齢者に対してもチラシを渡してもらうよう依頼した。	

今後の課題	高齢者に健康への意識を高めてもらう必要があり、百歳体操や認知症予防の講演、朝の声掛けや相談会を通して意識づけを行っていく必要がある。UR都市機構のマンションの百歳体操については今後も継続していけるよう支援していく。 また、組織化を拡充していく取組みが重要となる。 本庄地域の相談会については、今年度より土曜開催となり、多くの住民がより参加しやすくなった。 ふれあい喫茶に参加されている方達にも積極的に声掛けを行い、周知を行っていく。 また、大淀老人福祉センターや豊崎地域での活動に広げていきたい。
-------	---

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月18日（火）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☐ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント ＊今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	毎月ふれあい喫茶と併設で相談会を開催し、相談者の開拓を行っている。 土曜に実施したことにより、幅広い層の相談を受けることができている。 また、朝の登校児童見守り活動にも継続的に参加し、周知活動に取り組み顔を売ることができている。 母体のデイサービスの特徴を生かした、自宅でできる運動の動画配信や、運動のやり方のチラシの配布も継続している。 これらの取り組みが、地域性・浸透性・専門性・独自性のある活動として評価できる。 今後は、1つの地域に留まらず、他地域においてもノウハウを生かした取組みを広げていけるよう期待する。

課題対応取組み報告書

名称	此花区春日出地域総合相談窓口
提出日	令和 5 年 6 月 30 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	現代社会から孤立しがちな高齢者の予防支援策として地域支援関係者と連携を図り、ネットワークを構築する。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	i) 後期高齢者、ひとり暮らし高齢者など介護や支援・見守りのニーズが高い ii) 各分野の専門相談機関の連携および専門相談員のスキルアップ iii) 高齢化社会に必要な社会資源の掘り起こし iv) 認知症高齢者（疑い含む）への権利擁護支援 以上の4点を春日出地域総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）は地域ケア会議から見えてきた課題として挙げている。中でも権利擁護支援の問題は多く発生しており、その問題において地域支援関係者との連携は不足している。	
対象	地域支援関係者として、西九条地区民生委員児童委員協議会。	
地域特性	ランチの担当圏域は春日出中学校区である。 担当圏域内の高齢化率は、27.0%であり西九条地区が28.9%、梅香地区が28.4%、春日出地区（春日出中、春日出南）が23.8%となっている。（此花区全域は、27.2% 令和2年の国勢調査より） クレオ大阪西や此花総合センタービルなど、社会福祉施設や文化施設等がある。 戸建ての空き家が増加している様子があり、一方で新しいマンション建築が目立つようになっている。 全体的に町会入会率は低下しており、町会自体が高齢化している。	
活動目標	権利擁護支援を主として地域支援関係者と連携を図り、ネットワークを構築する。	
活動内容 (具体的取組み)	権利擁護支援講座～孤独死・福祉葬について、安心して亡くなれる地域づくり等について～ （10月26日事前説明、11月24日開催） 参加者：西九条地区民生委員児童委員9名（うち振り返りシート・アンケート8名の協力あり） 協力：此花区南西部地域包括支援センター「以下「包括」という」	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	地域で孤独死の現場を体験している参加者も多く、関心の高さを知ることができた。 「一歩踏み込んだ見守り活動の重要性と難しさを感じた」等の気づき、感想があり、今後の活動に参加者の半数が活かそうであるとの声を得ることができた。 ※振り返りシート・アンケートのまとめ 別添参照	
今後の課題	ランチの計画では、「圏域内での権利擁護支援を主とした講座の開催(年2～3回程度)」・「圏域内での権利擁護支援を主とした出張相談窓口の開催(年2～3回程度)」としていたが、今回は圏域内で1回しか講座は開催できず、圏域内での権利擁護支援を主とした出張相談窓口は全く開催できなかった。 対象になる地域支援関係者は民生委員児童委員協議会だけではなく、連合振興町会、老人会など幅広い。 今後は地域に根付き存在が浸透している包括からのスーパービジョンを受け、ランチとして何がどこまでできるのか、という基本的なことから精査し実践していきたい。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 5 年 7 月 1 4 日 (金)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☐ 継続性 ☐ 浸透性 ☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	地域に根差した民生委員と連携して一緒に取り組むことは効果の高い活動であり地域性が認められる。 地域の情報を持つ民生委員と活動することは今後も大事なことである。 今年度も継続していくことから今後は継続性への該当も期待する。

課題対応取組み報告書

名称	西区花乃井地域総合相談窓口					
提出日	2023	年	6	月	26	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☒ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域高齢者の参加意欲向上に向けた取り組み	
地域ケア会議から 見えてきた課題	マンションが多いことにより住民同士のつながりが形成されにくく、特に高齢者は孤立しやすい状況にある。 また、マンション自体の高齢化が進んでおり、周囲の目が行き届きにくいことから、課題の早期発見が困難となっている。	
対象	江戸堀地域、広教地域在住の高齢者	
地域特性	大阪市内では高齢化率が最も低い区であるが、近年、西区に転入する高齢者が増加傾向にある。 高齢者人口の増加やマンションが多いことにより、住民同士のつながりが形成されにくく、高齢者が孤立しやすい状況にある。	
活動目標	①開催形態を工夫し活動を継続する ②活動を通じて地域高齢者と交流する機会をつくり、課題の早期発見につなげる ③独自性を見出し、参加意欲の向上を目指す	
活動内容 (具体的取組み)	コスモス苑百歳体操として、毎週火曜日、いきいき百歳体操、かみかみ百歳体操を実施した。 また、体操の前後に簡単な脳トレや、オリジナル体操を取り入れた。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・併設する特別養護老人ホームの面会制限、新型コロナウイルスの感染拡大の時期には一時的に中止した期間もあったが、屋外での実施や、オンラインの活用等できることを考案し取り組み、活動を継続することができた。 ・参加意欲の向上のため、体操の前後に簡単な脳トレやオリジナル体操を実施した。	
今後の課題	地域高齢者の孤立予防として、参加意欲を維持するしくみを検討し、継続した参加を促す。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月13日 (木)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☐ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	・相談人数は件数が例年伸びてきているなか、地域に根差した活動をしている。 ・マンションが多い地域において、出かけられる場所があり交流できる場所となっていることは良い取組みになっている。 ・オリジナル体操や脳トレを取り入れるなど独自性を感じる。参加者が日々の相談事がしやすくなるなど積み重ねてきており、継続的な活動になっている。 ・今後も、地域包括支援センターと連携して活動していければより良い取組みになると期待する。	

課題対応取組み報告書

名称	港区港南地域総合相談窓口
提出日	令和 5 年 6 月 26 日

カテゴリ (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	地域や専門機関同士が気軽に連携が取れる体制を構築し、要援護者の早期発見を目指す。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	①世界的に複合的な課題が多く含まれ。権利擁護（成年後見制度の申立て等）に繋げる必要がある。 ②劣悪な住環境、急激な日常生活動作の低下により施設入所、入院などの検討が必要なケースがある。 ③支援者間の価値観と考え方の違い。	
対象	①権利擁護が必要な高齢者。 ②高齢者ご本人、またその関係者。 ③医療関係者と介護関係者等、価値観の違いなど支援に対する思いは一緒であるが考え方に若干のずれがある。	
地域特性	【市 岡】 比較的世帯数の多いマンションや新しい戸建ての住宅が多い一方、昔ながらの戸建ても多い。 港区の11校下の中では高齢化率は2番目に低く23%である。 ファミリー層が多い地域であるが、住んでいる総数が多い為、高齢者数は多い。 【田 中】 マンション、ワンルームなど集合住宅が多い一方で、昔ながらの戸建てや文化住宅も多い。 ワンルームマンションはオートロックの所も多く地域関係者も住んでいる住人を把握できていないところもある。 高齢化率は27%である。 大阪市全体の高齢化率は25.1%。 港区全体の高齢化率は27.2%であり市岡は港区全体の高齢化率より低く、田中はほぼ同じ比率である。 (令和3年度『港区つながりMAPより』)	
活動目標	・早期に発見し、支援者間で連携を取る事によりケースが困難化する事なくリスク回避を見越した介入ができるよう、地域や専門他機関との関係づくりを大切にする。 ・地域との繋がりが持てる高齢者を増やし、孤立せず地域と専門機関全体で見守りができる体制づくりの構築。	
活動内容 (具体的取組み)	・地域で開催されている、いきいきサロンや喫茶、配食サービス等に参加しその場での地域関係者との情報交換や相談対応、行事終了後の見守り訪問などを行う。また参加高齢者と直接の会話の中での状態の把握や相談対応を行う。 ・ネットワーク委員会との関係を深め、港南地域総合相談窓口（ランチ）が高齢者の総合相談窓口である事の周知と顔の見える関係を構築する。またその場で支援や見守りが必要と思われる高齢者の情報を地域関係者から収集し相談対応を行う。 ・月に1度港区社会福祉協議会にて開催されている地域見守りコーディネーター連絡会に参加し、担当圏域内外のコーディネーターと連携体制の構築と情報交換に努め、さらなる関係の強化を行う。 ・各専門機関や区役所、社会福祉協議会、三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）、介護サービス事業所等関係機関と連携し困難ケースの対応を行う。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①成年後見制度については、金銭の管理という重要な事を話し合わないといけないう、日頃からの本人との定期的な関わりが大切である。こまめに訪問を行い本人との関りを持ち信頼関係を構築する。認知症を患っていても定期的にお会いしていると、心を開いてくれる方はおられる。 ②施設入所に関して常日頃からの本人との繋がり、また家財整理や賃貸契約の解約等の説明、ご本人と良く話し合い、現状自宅での生活が難しいと理解して頂けるように丁寧に話をする事が大切だと思われる。 ③職種が異なると、それぞれの思いがあり意見は異なるが、一緒に支援をしているという事を頭におき、どの様に支援を進めていけば本人にとって一番いいかを、地域ケア会議等の会議で意見を共有し、会議を介し支援方針を一致させていく事ができた。お互いの職種同士がわかりあえる事が大切であると思います。また地域関係者の見守りも重要であり、地域関係者を含めての支援方針の統一が重要である。	

今後の課題	・地域にできるだけ出る事により地域見守りコーディネーターやネットワーク委員、民生委員等と繋がりが深まり、直接相談をして頂けるようになる。会館に行く回数が減ると相談件数も減る為、今年度はできるだけ会館を訪問できるように努めたい。 ・困難ケースが複雑化、多様化している為、引き続き各専門機関や3師会、区役所、社会福祉協議会等の関係機関との連携とネットワーク構築の強化に励む。 ⇒各関係機関との連携を密にし早期に対象者を発見し、早期予防、早期対応ができるように心がける。
-------	--

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月14日(金)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性 ☐ 専門性 ☐ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント ＊今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	積極的に参加し地域との関係づくりに努められ、対象者にも何度も訪問し、信頼関係を構築しさらなる支援につなげておられます。 複雑な世帯、深刻化してからの相談が増加する中、対象者の理解・信頼関係の構築は非常に重要です。 今後も関係機関との連携・地域関係者と連携し、地域に根ざした支援を実施していただきたい。

課題対応取組み報告書

名称	港区市岡東地域総合相談窓口
提出日	令和 5 年 6 月 20 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☒ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	認知症高齢者の早期発見につながるための啓発活動	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・認知症についての知識や理解がなかったり、相談窓口を知らないなどの理由で、重度化してから相談になることが多い。 ・支援の必要はあるが本人が拒否するために医療・介護サービスにつなげることが困難である。	
対象	地域の高齢者とその家族、地域支援者	
地域特性	担当圏域：波除地域（波除、市岡元町）、南市岡地域（南市岡1丁目, 2丁目） ・波除地域 高齢者人口：3062名 日常生活自立度がI以上の方：530名 ・南市岡地域 高齢者人口：780名 日常生活自立度がI以上の方：128名 （2023年4月1日時点 認知症高齢者等の実態把握のための資料より）	
活動目標	・相談窓口の周知 ・地域で支援されている方々や住民に協力していただき、早期発見につなげる	
活動内容 (具体的取組み)	・認知症や介護保険についてミニ講座を実施（南市岡地域ネットワーク委員会にて） 認知症ケアパスやチェックリストを活用 ・地域の食事サービスに代わるお弁当配布時に、健康に関するチラシを作成して配布するとともに認知症予防のための脳トレ用プリントを配布 ・一般向け認知症講演会、認知症学ぼう会を共催 ・認知症初期集中支援チーム（以下「オレンジチーム」という）との連携強化（会議への参加等）	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・オレンジチームへの相談：4件（令和3年度）→ 6件（令和4年度） オレンジチームへ直接相談されるケースが多いが、総合相談窓口（ランチ）（以下「ランチ」という）へ相談が入りその後オレンジチームへ相談した件数も増えた ・地域住民や地域支援者から「ちょっと気になる人がいて…」という連絡が増えている 相談内容により、ランチのみでの対応や、地域包括支援センターと協働で支援することもある	
今後の課題	・今後も広く啓発活動を行ない、早期発見につなげる必要がある ・認知症の方の意思決定支援について（特にサービスの利用を拒否される方への対応を地域で支援されている方々に協力していただき、一緒に検討していく必要がある）	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月14日(金)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント	地域でミニ講座をされたり、食事サービスやお弁当配付の際に認知症予防のプリントを配付される活動から、相談へつながり、成果がでています。 また、課題のある高齢者に対して、地域関係機関と連携をとりながら、必要な支援を行う体制づくりに取組まれています。 今後もオレンジチームの連携強化から、地域の認知症への理解につながるよう期待します。	
* 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。		